

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901688		
法人名	(有)旭川高齢者グループホーム		
事業所名	グループホームほーぶ旭川		
所在地	北海道旭川市永山12条2丁目5番1号		
自己評価作成日	平成29年8月31日	評価結果市町村受理日	平成29年10月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_02_2_kani=true&JigvosvoCd=0172901688-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成29年10月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が行きたいという希望があれば公園や散歩へ行けることが出来る。各居室にトイレ・洗面台、クローゼットが完備され、定期的清掃に加えて、利用者様や家族とともに、清潔な環境の維持に努めています。法人内のグループホームなどと連携し、地域の利用者を支援している。協力医療機関の受診の支援に力を入れており、人工透析の通院を含めて、通院の支援は事業所対応としている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム旭川は、旭川市郊外にあり最寄りの駅やバス停からも近く、旧永山3号川に面した閑静な住宅地に立地している。移転して4年目を迎えようとしている事業所は、地域とのさらなる関係作りを課題としている。運営推進会議では、地域の方々から様々な情報や提案、意見を得ており、運営やケアの充実に活かせるよう努めている。職員、利用者、家族間は馴染みの関係にあり、面会時には家族以外の利用者にも声かけがあるなど、良好な関係を築いている。職員は、外出支援やゆとりを持って利用者や家族に向き合いたいとの要望があり、その実現に向けて検討を続けている。さらに、利用者の心身の変化を見逃さず、不安や思いの汲み取りに努め、安心感ある暮らしを支える役割を認識している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果			
	○	↓該当するものに○印		○	↓該当するものに○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1日2回申し送り時に話をしています。	職員は法人理念を共有し、ケアサービスに反映できるように努めている。新人研修時は、理念に込められた意義を説明し理解に繋げている。理念の実践は、会議で確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	毎年8月頃に町内の運動会に参加しています。	町内会に加入し、月1回廃品回収に協力している。ボランティアによる歌や演奏は、利用者の日常に彩りを添えている。移転して3年目でもあり、地域との関係性はこれからの課題としている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民との交流はあまりありません。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ミーティングで報告を受けて活かせるように努力しています。	会議はメンバーに運営状況を報告し、その後に質疑応答が行われている。外部評価での結果を踏まえ、災害対策等の課題に対して意見を得ている。職員に会議内容を伝え、家族には議事録を送付し、会議への出席を要請している。	家族の出席は若干得られているが、今後も出席要請を続け、さらなる会議の活性化を期待する。また、メンバーである地域の方々を通して、地域交流への広がりにも期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護のケースワーカーや地域包括支援センターとも情報交換を行っています。	事故報告や介護認定更新時には、管理者が担当窓口を訪れ実情を報告している。集団指導や実地指導、電話での相談事でも情報や意見が得られ、運営やケアに繋げている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングで報告を行い取り組んでいます。	マニュアルを基に会議や身体拘束廃止委員会等で、ペット柵やセンサーマットを使用している利用者の現状を検討し、改善に向けて話し合っている。日中は、鍵を掛けないケアに取り組んでいる。	マニュアルのみならず外部研修や内部研修等でも、身体拘束や虐待をしないケアのあり方を学び、職員の共通理解に繋げる取り組みに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングを通じて防止に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングにて成年後見制度について学んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様の家族の方が施設を訪れた際に不安等を聞いて説明を行って納得を得ています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の家族の方が施設を訪れた際に家族の意見を聞いて運営に反映させています。	利用者の日常生活は、家族来訪時や電話、運営推進会議の議事録やケアプランを送付する際に個別の写真やメッセージを添えて報告している。利用者からの要望は都度傾聴し、家族の意見は解決までの行程を記録している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りやミーティングの際に意見や提案を聞く機会を設けています。	管理者は、日々の業務や全体会議、個人面談等で職員から就業関係やケアについての意見や要望を受け止めている。法人職員は、管理者と情報を共有し余裕ある職員の配置などを協議している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来る限り就労環境や条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を設けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流を通じてサービスの向上に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています	利用者様やご家族との連絡を取りながら本人が困っている事や要望等を聞き、安心して過ごせるように支援に努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が来所された時等に普段の生活等を伝えて、ニーズ等を聞きながら、信頼関係が築けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族がまず必要としている支援を把握する。経過を記録でまとめ対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護を行う際に暮らしを共に築くため声掛けやコミュニケーションを大切にしています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所や外出電話を通じて、本人と家族との絆を大切にしながら本人を支えていく関係作りに努めています		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所の関係作りに努めています	職員や利用者、家族間の関係性は良好で馴染みの関係にある。家族や知人の来訪時は、居室で寛げるよう配慮している。職員は、利用者と昔話をしたり、家族に利用者への電話依頼や面会を促している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶の時間やおやつの時間にコミュニケーション作りに努めています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院をしても病院へ様子を見に行き家族から経過を聞いています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの意向を聞き支援に役立てています	利用者の要望や意向は、関わりの中や家族からの情報で確認している。内容によってはケアプランに反映するなど、満足感に繋がる取り組みに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人のフェイスシート等を利用して本人の過去の話しを聞くなどし対応しています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	見守り声掛けを行い把握に努めています		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングで話し合い意見を出し合っています。家族にも意見を確認しています。	ケアプランは、日々の関わりで利用者や家族が望む暮らしに対する要望を聞き取り、医療関係者の意見を参考に全体会議で協議して作成している。見直し時は、ケアプランにある目標に対して達成度評価を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々変わったことがあれば報告しています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	変わったことがなくても様子を把握して、サービスの多様化に努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	趣味や特技を聞き出し生かせる事を増やしています		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	なるべく希望を大切にしています。	利用者や家族が望む医療機関への受診を受け入れ、職員が同行支援を行っている。週1回の訪問看護師や、職員に看護師の有資格者が数名おり、日常的な健康管理が行われ、情報は関係者と共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送りや看護日誌等を通して体調の管理や行動の変化を情報収集して適切な受診や看護を受けられるように支援しています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族様や病院との連絡や病棟を訪れる等をして情報の収集が出来る様に努めています		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいます	本人と家族の要望をできるように支援を把握する。経過を記録でまとめ対応に努めています。	重度化や終末期の対応については指針に基づき契約時に説明し、急変時には再度家族の意向を確認している。看取り支援は行っていないが、系列の事業所や医療機関での支援を家族に伝えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを読んでいるだけで実践できていない		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網と避難訓練を年2回実施しています	夜間想定訓練を年2回計画し、1回目は消防署の指導を受け、2回目は自主訓練を実施している。地域住民も登録した緊急連絡網を整備し、また災害備蓄品は法人が用意している。	近所には川があり、停電や地震を含む風水害に備えての実践的訓練、避難場所や経路の確認に伴い家族への周知、防寒対策や屋内の一時的避難場所の確保と、独自の災害時備蓄品の用意、非常時に備え救命法の受講を期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや対応には注意しております	職員は、利用者を人生の先輩として敬い、配慮ある接遇に努めている。言葉遣いなど不適切なケアが見られた時には、管理者や職員が注意喚起を促している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な限り本人の意向を尊重。不可能な時は、家族へ協力を得ています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのその日のペースができていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	病院受診時や外出時に着たい服を選んでいただいています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に後片付けを毎日行っています。	献立と食材は業者から届くが、誕生日などの行事には、利用者の要望に沿った独自の献立を職員が用意し満足感に繋げている。利用者の出来ることは手伝って貰い、言葉を交わしながら見守りや介助支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の栄養バランス等を考慮しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の利用者様に応じてケアしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンや習慣を活かして支援しています	居室のトイレを使用している利用者からの報告や職員の把握により、排泄チェック表に記入し職員の共有としている。衛生用品の使用は、利用者の希望を取り入れながら全職員で検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の利用者様に応じてケアしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	介護度の重度な方が多く実施は難しい。	利用者は、2階のユニット浴室を使用している。同性介助の要望を受け入れ、基本的に週2回の入浴支援を行っている。利用者の要望や状態により足湯をしながらのシャワー浴もあるが、入浴を楽しめるよう密な会話を取り入れられている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態に応じて声掛け等の対応を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	症状について理解しており変化によって服薬できる支援の実施		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の生活歴を理解して一人ひとりの生活に取り入れています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援については、家族や地域と協力を得ながら支援しています。	町内会主催の運動会見学や花見の外出を企画しているが、悪天候のため実行には至っていない。個別や全体の外出支援は困難な環境だが、家族の支援で墓参りや温泉に外出している利用者もいる。	身体機能維持や気分転換などに繋がる散歩や買い物、事業所前庭での日光浴やお茶会など、身近な所を利用した日常的な外出支援を期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金については所持金額について把握し、力に応じて対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者や家族の協力を得て支援しています		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感や季節感を取り入れて居心地良く過ごせるように工夫しています。	毎日の温湿度は、ケア日誌に記載している。採光や清掃、音など生活環境に配慮がある。台所、事務室、食堂兼居間が一体化され、利用者の様子が間近に見られる。居間にはハロウインの飾り物や利用者の作品が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでカラオケやラジオ体操を楽しまれています		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族より使い慣れた物品を持ってきていただいています。	居室の壁は白色だが、一部分は自室と認識出来るよう各々色を変えている。クローゼットやカーペットの他に手洗い付きトイレも備えられ、プライバシーへの配慮がある。整理ダンスなど馴染みの物に囲まれ、安心して暮らせる環境を整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内でのトイレには表札をかけたたり工夫をしています。		